



TOKIO MARINE  
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社

MILLEA GROUP

# 東京海上日動 マリンニュース

NO. 180

2008年1月23日

海上業務部 コマーシャル損害部

## アフリカでの海賊事件が急増しています！

### 要旨

昨年(2007年)の世界の海賊事件をまとめた報告書が今般、IMB(国際海事局)から発表されました。これによれば、昨年度は海賊の件数が前年より約10%増加し、アフリカでの事件、特にナイジェリアとソマリアでの事件が急増しています。

### 1. はじめに

ICC(国際商業会議所)の一部門であるIMB(International Maritime Bureau:国際海事局、本部 ロンドン)は、民間ベースで海上犯罪の問題に取り組むことを目的として、1981年に設立されました。

同局は、マレーシアのクアラルンプールに海賊事件報告センターを設けると共に、毎年、年初に前年度に発生した海賊事件についてとりまとめて、年次報告書を発表しています。

今般、2007年の年次報告書が発表されましたので、この要旨をご紹介します。

【注】この年次報告書は、IMBのウェブ・サイト(<http://www.icc-ccs.org>)で見ることができます。

### 2. 昨年の世界の海賊事件

(1) 海賊事件報告センターに報告された世界の海賊事件の総数は、2006年より10%増加しました。

【注】2003年以降、減少傾向が続いており、2006年は239件でしたが、2007年は増加に転じ、263件になりました。

これは、アフリカのナイジェリアとソマリアの両国での海賊事件の大幅な増加によるものです。

ナイジェリアでは、2006年に件数が12件であったものが、昨年は42件にのぼりました。

また、ソマリアでは、2006年に10件であったものが、昨年は31件にのぼりました。すなわち、この両国の合計のみで、2006年の22件が約50件も増加して、73件になった訳です。

一方、東南アジアでの件数は減少しつつあります。

特にインドネシアでは、2003年には121件でしたが、昨年は43件に減少し、この5年間に約1/3となりました。しかしながら、「減少した」とは言え、昨年の上記件数は世界のその他の国々と比べると最多となっています。

この結果、同国とナイジェリア、ソマリアの3国のみで、世界全体の4割を超える件数となっています。

マレーシア、マラッカ海峡、シンガポール海峡も減少傾向となっています。これは関係国の間で警備面での協力体制が強化された結果とみられます。

バングラデシュでは、2006年に47件であったものが、昨年は15件のみと大幅に減少しました。

(2) ちなみに、一昨年(2006年)は、バングラデシュでの海賊事件の急増が問題になりました。同国で発生した事件は47件にのぼり、インドネシアの50件と合計すれば、これら2カ国のみで世界全体の4割を占めていました。このように、バングラデシュでの昨年の事件の減少は特筆されますが、同国が依然として危険な海域であることに変わりありません。

### 3. 昨年の日本関係船の海賊被害

今般、国土交通省から発表された情報によれば、2007年に日本関係船舶(日本籍船および日本の船社が運航する船舶)が海賊等の被害にあった事件は10件ありました。前年(06年)は8件、05年は9件であり、大きな変化はみられません。

これを発生場所で見ると、東南アジア周辺が5件、インド周辺が2件、アフリカ周辺3件となっています。アフリカ周辺の事件は、前年は1件に過ぎず、世界の海賊事件の傾向と同様にこの地域での事件が増えていることを示しています。

被害状況としては、船舶がハイジャックされた事件で、フィリピン人乗組員が1名行方不明になっている例などが紹介されています。また、これらの事件は全て夜間に発生している、と指摘されています。

### 4. ナイジェリアとソマリア

ナイジェリアとソマリアの件数が2007年に大幅に増加した理由として、IMBは次の点を指摘しています。

①海賊が、海上の沖合まで(以前より)広範囲に活動する能力を持つようになったこと、②武器の装備を増強したこと、③(以前より)海賊が組織化したこと、④海賊を十分に取締まる法執行機関がないこと。

#### (1) ナイジェリア

ナイジェリアでは、2007年には、海賊件数(42件)は同国の史上2番目となり、海賊が乗船した船舶は35隻と、史上最高となりました。

これらの襲撃は同国内の「政治的な変革」によるもの、と正当化する筋もありますが、海運業界からみれば、これは犯罪行為でしかありません。

#### (2) ソマリア

ソマリアでは、2007年には、船舶のハイジャックが11件発生して、154人が人質となりました。この人数は同国史上、最多となっています。特に危険な水域は同国の東部と東北部となっています。

しばしば、海賊は「グレナードランチャー」(手榴弾などを発射する武器)などの破壊力の強い武器を使用して、沖合まで海賊母船で向かい、そこで搭載した高速艇を下ろして、通航船舶を襲撃します。

同国は1991年の内戦以後、国土は分断され、事実上の無政府状態が続いています。海賊はこれまで法を完全に無視しており、IMO(国際海事機関)を中心とする、最近の国際社会による介入やアメリカその他の諸国の海軍の艦船による近辺のパトロールのみが「抑止力」となっているのが現状です。

【注】IMOの要請により、国連安全保障理事会は「ソマリア海域での海賊を防ぐために加盟国に協力することを薦める」という主旨の議長見解を2006年に表明しました。また、IMO自身は、昨年(06年)の総会で「現地の「政府」に対して、外国の艦船が海賊を追尾する際には、同国の領海に入ることに同意することを求める」という主旨の決議を採択しました。

以上